# ヒロアカ世界に転生したと思ったら個性が『召喚』で修羅場なんですがそれは

旅鴉

## 【注意事項】

このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

ゲーマーがこれまでゲームで育てたキャラクター全部を召還出来る『個性』と共に転生してゲームキャラに愛されたり戦ったりする話。思いつきなので続かない。

艦これとうらぶ文アル千銃士なむあみＦＧＯポケモン妖怪ウォッチのキャラクターなどが好き勝手出てくる

# 目次

始まりが突然すぎて ―――― 1
この世界で生きること ―――― 11

# 始まりが突然すぎて

「大丈夫か!?マスター、怪我はないか？」
「あぁっ主！やっとお逢いできて、榛名、感激です！」
「提督！やっとお逢いできましたね…」
「次こそは俺と死んでくれるよな、司書？寂しかった…」
「…大丈夫か堂守？具合でも悪いのか？薬師如来様を呼ぼう」
「先輩、本当に顔色がよろしくないです…大丈夫ですか？おやすみになった方が…」
「ひえぇ…」

何でこんなことになったんだろう。私を囲む美少女とイケメンの顔面偏差値に死にそうになりながら私は意識を飛ばした。

私は一般的なクソオタク。

朝から晩までゲームしてゲームしてゲームして素材集めて好感度上げてレベル上げてゲームしてゲームしてイベント周回してイベント周回して攻略サイトに走ってゲームしてガチャ回して爆死してゲームしてた。

そんなクソのような生活が祟り、若くして突然死してしまった。そこまではまぁいい、良くないけど。

そして目が覚めると私は赤ちゃんだった。ぷにぷにほっぺに紅葉のようなお手々。自分ながら可愛い。

あー転生か。あるある。なんかね、漫画とかゲームの世界だったりするんでしょ。とのんびり赤ちゃんを楽しんだ。

四歳になり気付いた。ここヒロアカの世界だ。個性とかがあるやつ。だが私は見た目も別に普通、特に今のところ個性らしいものも発現していない。少なくとも異形型ではないな。

そんな中親の都合で引っ越し、新しい幼稚園にやってきた。

「今日から皆とお友だちになる呼子　結ちゃんです！なかよくしてあげてねー」

幼稚園で先生が私を紹介する。キョロキョロと周囲を見回して私は固まった。間違

いない。あれは。
「よろしくね」
「よ、よろしくね…」
緑谷出久。主人公。それに、
「お前てんこーせーってゆーんだろ！俺知ってる！」
「かっちゃん何でそんな事しってんの!?」
「かっちゃんすげー！頭やべー！」
頭やべー！は意味違わない？爆豪勝己。ライバル。
幼稚園だから転校生ではないんじゃないかな。
「お前個性は？」
「あ…まだ出てないの」
子供特有の無遠慮さでずいずい来る爆豪勝己にそう微笑む。今回の私の見た目は自分で言うのもなんだけどめちゃくちゃ可愛いので基本まあまあ可愛こぶっておく。中身クソオタクのおばさんな時点で可愛くないけどな！中身私じゃなければな!!
「ふーん…まあお前がどんな個性でも俺の方が強くてかっけーけどな！どーしてもっていうんなら俺が守ってやるよ!!よわそーだし！」
「ありがとう、勝己くん強いんだね」

「まーな！」
　当たり障りのない美少女返答。爆豪くん貴様私の見た目に惑わされたな可哀想に。
中身おばさんでゴミンニ。
「結ちゃんも個性まだなんだね。僕もなんだ」
「そうなの？」
「うん、でも僕いつかオールマイトみたいなカッコいいヒーローになるんだ！」
「オールマイト好きなの？」
「うん！」
　ショタ出久くん可愛いかよ。えっ…可愛い…ぷにぷに可愛い…子供特有の純真な愛らしさ…私に欠けてるもの…。癒される～と思っていると爆豪くんが「ゆい！デクなんかといても楽しくないだろ！」と絡んできた。
　あらかわ。子供可愛い。
「かっちゃん酷いよ…」
「本当のことだろ。デクむこせーだし」
「むこせー？」
「デク個性が無いんだって。変だろ？」

「でももしかしたらこれから個性出るかもしれないでしょ？それに私だってまだだよ」
「結ちゃん」
「諦めちゃダメだよ出久くん。オールマイトみたいなヒーローになるんでしょ？」
「うん！」
「ふん！俺の方がスゲーヒーローになるからな！」
「かっちゃんも頑張ってね」
　因みに私は別にヒーローになるつもりはない。個性もわかんないし、別にヒーローに憧れたりしてないし。ここでも普通に平穏なオタクとして成長するだろう…と思ってたんだけど。

　出久くんやかっちゃんと同じ幼稚園に通うようになってしばらくして事件は起きた。
　夜中我が家に侵入してきた不審な影。ヴィランだった。
　ヴィランは私のこの世界での両親を手にかけ、そして私のことも殺そうとした。個性も発現していない四歳児には何も出来ない。諦めようとしたその時、六つの影が現れた。

「マスターに手を出そうとする者はこの俺が許さない！」
「主に仇なす敵は斬る！」
「提督はこの榛名がお守りいたします！」
「ざっけんじゃねぇぞ！バラすぞ！」
「無事か堂守！」
「先輩！大丈夫ですか!?」

赤い軍服に古びたマスケット銃。千銃士に登場するイギリス軍用銃の貴銃士ブラウン・ベス。
黒い牧師のような服装で日本刀を振るう男。刀剣乱舞に登場する付喪神へしきり長谷部（極）。
巫女服のような服装に戦艦を模した艤装。艦これの金剛型戦艦、榛名改二。
赤毛に赤い着物をお洒落に羽織った鎌を振るう男。文豪とアルケミストの太宰治。
紺色のポニーテールに稲妻の剣。なむあみだ仏っ！の帝釈天。
そして自分の体ほどもある巨大な盾と薄紫のセミロングヘア。ＦＧＯのマシュ。
かつてゲームで遊んでいたキャラクターたちが目の前に現れた。

そして冒頭に戻る。彼等がヴィランをボコボコにし、警察を呼び、救急車で両親を病院に搬送し、私がまだ放心しているときに六人はこのテンション。いや六人じゃなくて一挺と一振りと一隻と一尊と二人？めんどくさ、いいよ六人で。

気遣ってくれてありがとうベスくん。君たちのお陰で怪我はないよ。

帝釈天さんとマシュはよく考えて。私目の前で親殺されてるからね。放心してない方がヤバいよね。薬師様呼ばなくて良いから。

長谷部と榛名は喜んでくれるのは良いけどもうちょっと待って。まだ何も整理ついてないから。

だざざに至っては論外だからね。四歳に心中を求めるんじゃありません。

というか何で君たちいるの。守ってくれたのは有り難いけど君たちゲームの中の存在じゃないの？何で私のこと知ってるの？当たり前みたいにマスター、主、提督、司書、堂守、先輩って呼んでるけど実際に会ったことないよね？画面通してだしむしろ私のことなんか認識してなかったよね？逢いたかった？いや私も逢いたかったけどなんか、その本当に会うのは予想外というかなんというか。

というか四歳女児を四人のイケメンと二人の美少女が囲んで慕ってる姿は異様そのものというか。

後にこれは私の個性によるものだと言うことが判明した。相手がヴィランと言うこともあって、今回のことは両親を目の前で失ったショックと命の危機に直面し個性が暴走を起こした不幸な事件として片付けられた。

私、呼子　結の個性は『召喚』。過去に縁を結んだあらゆる存在を召還、使役する能力。そしてその『縁』は例え前世ゲームで育てたとかゲットしたとかその程度であっても有効である。

元ゲーマーだった私がそんな力を得たらどうなるか。

「起きなさい司令官！本っ当にだらしないんだから！シャキッとしなさいな！」

「おかあさん！朝だよ起きて！今日は私たちと公園に行く約束だよ！」

「うふふ、楽しいわ、楽しいわ！」

「おや、おはよう堂守さん。日曜だと言うのに早いね」
「おはようマスターちゃん。朝食はハムエッグでいいか？」
「お早うございます主君！気持ちの良い朝ですね」
「よぉ司書、眠そうな顔してんなぁおい」
「あー！俺っちのチョコボー返すニャン！」
「ヨコドリっ！」
「ピカピカ～!!」
「おはようご主人様！ああ、椅子に直に座ってはお尻が痛いよね…ささっ、僕の上に座って！」
「ふふふ、では私は足元に…」
「どうした、堂守。目が死んでるが」
「牛乳を飲め」
「ヘーイ提督ゥー！おはようございマース！」
「ふぎゃー！ご飯を食べる主様もかわいい～!!」
「おい誰だ朝から飲酒しているのは！」
「あらマスター、おはようございますー。見てください、今日のドレス。すてきでしょー？」

「おい龍田！それ俺のパンだろうが！」
「あらー？食べないのかと思ったわ～」
「うっ…胃が…」
「おはようございますでぅぃすー！結たん」
「おんみょ～ん」
「大日！たっくどこいったんだよ…戻ってきたらぶっこんでやる」
「むっ、堂守食べないのか!?では私が貰ってやろう！」
「うわっ誰だよピカチュウにケチャップそのまんま渡したやつ！」
「ええいうるさい！主の御前だぞ静かにしろ!!」
「主、欲しいものはないか？」
「よきかなよきかな」

「全員帰れ」

# この世界で生きること

「あのね、私ヒーローになろうと思うの」

そう言うと同じ食卓にいた面子は揃って表情をしかめた。

私は呼子　結（よびこ　ゆい）。

前世は糞ゲーマー、今世は美少女。

そして”個性”は『召喚』。

過去に縁を結んだあらゆる存在を召喚・使役することが出来る。基本『ゲームで集める・育てる』などしたキャラクターを、姿を思い浮かべながら名前を呼ぶだけでいつでもどこでも喚び出せるのだ。

喚び出したキャラクターはこの世界に安定して肉体を保てる『家族』タイプと、わずかな時間しか姿を保てない『お客』タイプに分けられる。その辺の差は私もあまり分からないが、私のその作品への入れ込み具合や、やりこみ、課金、親愛度や絆などの『縁の強さ』の他、ゲームそのもののシステムに影響されるようだ。

例えば、艦娘や刀剣男士や貴銃士、文アルの文士、なむあみの仏様、バンケツの英傑、ポケモンなどは基本『家族』に分類される。

設定上プレイヤーに所有されたり、生活基盤や生命維持・顕現にプレイヤーの力が必要な設定だったりする系統だ。あとただ単にこの辺は課金ややりこみが強かった。

逆に『生活基盤や生命維持などでプレイヤーに依存しない』キャラクターや、プレイヤーがキャラクターになって動くタイプのゲーム、原作がゲームではなくアニメや漫画のものは『お客』だ。例えばカービィとかマリオとかオリマーとかガンダムとかコンパチヒーロー、あとおそ松さんや文スト、ヒプマイなどなど……その辺はどんなゲームをいくらやりこんでもお客だった。あと名前のあるポケモントレーナーとかも呼べはしたがこちらだ。恋愛ゲームやアイドルゲーム系もこっち。デジモンはやりこみが足りなかったのか何なのかこっち。

あと同じ作品でもキャラや育て具合によって変わるのもいる。例えばともだち妖怪はウィスパー・ジバニャンは家族だが、あまり育ててないレベルの低いじんめん犬はお客、育てたカンストかおベロスは家族。

ＦＧＯの英霊に関しては絆５・レベル６０以上じゃないとレア度やキャラに関わらずお客。

『家族』に関しては一度召喚すると私が生きている限りはどんなに遠くにいても何年でもこの世界に存在を固定できる。勿論全キャラそのまま肉体を持って存在し続けられたらどれだけの場所があっても足りないので日替わりでこちらに居てもらってるが、霊体化してるだけで向こうが来たい！と思えば勝手に姿を現して来ることもある。ちなみに例え遠くで何かしてたとしても、私が呼べばすぐ目の前に連れてこれる。

『お客』は何回召喚しても、あくまでも私が喚ばないと来ないし、この世界に体を固定できる時間は最短のキャラで１０分。まぁ合わなくてチュートリアルくらいしかやらなかったようなゲームでも、名前と顔さえ覚えていればそれだけ来てくれるからありがたいけど。

こんな最強個性だが、勿論デメリットはある。

どうやら彼らは私の体力？というか生命力？を削って存在しているようで、一定数を超えると私が倒れる。そうじゃなくても基本歩くことすらギリギリ、走るなんてもっての他状態。病弱な深窓の令嬢みたいになってる。中身ゲーマーだけど。ちなみに３０人の『家族』と１５人の『お客』ならお客の方がキツい。

なので反対されるのは予想してた。だって基本誰かにお姫様抱っこされるか車椅子

で移動、箸より重たいものなんて持ったことありません！レベルの私がそんな事言ったら誰だって反対する。私もする。

「駄目に決まってるだろう？危なすぎる」

「そうだね……堂守にヒーローは、難しい、かな……」

我らが初期刀歌仙と、主治医薬師如来様が首を横に振った。それに続いて他の皆も反対する。何なら床に寝っ転がってたブラッキーとエーフィすら首を横に振ったし、棚の上で寝てたモクローまで反対した。

でも私もそれなりに理由があるのだ。

『個性の無許可使用』。今は私が孤児でこの身体だから見逃されてるけど、大人になったらそうも行かないはず」

「「!!」」

あの日、私は結局両親を失った。両親がお金持ちだったことや保険金……そしてお金や法律に強いキャラを召喚し色々な給付金や敵被害者救済措置などを手配してもらったり、株とかで当ててくれたりしたのでお金には全く困らず生活できている。あの事件のあった場所から遠く離れたこの土地で皆と暮らして、もう１０年近く。学校で具合が悪くなった時などは彼らが保護者代わりに来てくれるし、家事や買い物も任せられる。しかし私が二十歳を超えたらそうも行かないだろう。数が多すぎるし騒がしいけど、私

だって皆と気軽に会えないのは悲しいのだ。

「それに、戦闘狂タイプや戦いの場でしか自分を認められないタイプの子達がいい加減限界だと思う」

私のゲームの好みは基本バトルがあるものだったし、武器や兵器擬人化も多い。

そうじゃなくても鬼の英傑とかタケミカヅチみたいな軍神、スナイダーとか同田貫とか降三世明王とか……戦場大好き!系はかなりあれだ。筋トレしたり敷地内で喧嘩したりしてるが鬱憤が溜まっているのはわかる。いつか爆発してしまって、人に迷惑をかけるかもしれない。純粋にヒーローを志している人には悪いが、彼らの活躍の場を作ってあげたいのだ。もちろん殺しはさせられないしかなり加減はしてもらう必要があるけど。

「あとこの私の個性、特に『家族』タイプの貴方たちに関しては正直『ヒーローレベルに強い生命体を軍隊レベルに呼び出せる』わけで。私を利用しようとする敵が現れる可能性はあるし、そもそも世界でもかなり類を見ない個性だからヒーロー科に来て個性を扱う訓練をしっかりして欲しいって雄英の偉い先生からお話が来たの。私や貴方たちに悪気がなくても、例えば何か起きて私の個性が暴走してしまって呼び出せるキャラ片っ端から召喚して暴れさせたりしちゃったら?誰かが操られたり闇堕ちしたりして私の支配から抜けて、敵みたいに街で大暴れしちゃったら?」

「……確かに」

艦娘は見た目こそ美少女だけど出す破壊力は本物の戦艦級。刀剣男士や貴銃士は艦娘には劣るがかなりの身体能力を発揮するし元が武器だけあって戦闘センスは高い。文士たちも身体能力は底上げされているし、そもそも本の世界に人を引きずり込んだり、あと彼らの攻撃は肉体ではなく精神に訴えるので喰らうとどんな相手でもかなりダメージが入る。仏や神なんか言うまでもないし、英霊もヤバい。ポケモンだって伝説や幻級は勿論普通に暴れられたら大変だし。妖怪もSランク以上も凄いが、Eランクですら取り憑いたら面倒な事件を起こす。『お客』だって呼び出したらヤバい奴らばかりだ。

皆を信じてない訳じゃない。制御しきれない自信がないわけでもない。それでも、この世界で皆と生きるためには出来る限りのことはしないといけない。

「私、何も出来ないし戦場では足手まといだけど。みんな、手伝って」

「…っ、勿論デース！提督がそこまで私たちのことを考えてくれていたなんて……感激デース！」

抱きついてきた金剛に、彼女を押し退けながら長谷部が私の手を取る。

「ええ、主命とあらば。俺は主に何処までもついていきますよ」

「うん！僕も司書さんとずーっと一緒にいたいし、それが皆のためになるのなら！」

宮沢賢治先生がぎゅっと抱きついてきた。帝釈天も箸を置いて私を見据える。

「それがこの衆生と、そして堂守のためになるのなら俺たちも力を貸そう」
「勿論でういすよ！アタクシたちも大事な友達の結たんと離れるわけにはいきませんよ！」
「それが頭の望みなら」
ウィスパー、バンケツのジライヤが続く。ブラッキーとエーフィ、モクローも私にすり寄ってきた。が、それらをひっぺ返してシャスポーが私を抱き締めた。
「それがマスターの望みなら。……ずっと一緒にいようね、マスター♡」
「……いいよぉ、マスターの今回の頼みはきいてやるよぉ。でも、……お前距離がちけぇんだよシャスポー」
あっ、始まった。
新シンがシャスポーを私から引き離す。後ろでは「提督に軽々しく触らないでクダサーイ！」と金剛が叫び数秒後には乱闘になった。

最大の問題はこれだ。皆の事は好きだ。それこそ家族のように。
なのだが、私への好感度が皆何故かぶち上がっており、性別種族混合地獄のハーレムみたいになってる。私を取り合ったりお前馴れ馴れしいんだよ！と喧嘩が始まるなんて日常茶飯事だ。好かれるのは悪いことじゃないし、嫌じゃないけどこの『好き』の中

で更に『主・マスターとして好き』『子供のように思っている』『恋愛・性欲対象として好き』『私を親のように思っている』『友達だと思っている』……など細分化されるわけで面倒くさいしうるさい。

そして私は一人しかいないし誰のものでもないのでこうなる。いや、この中から一人選んで付き合ったら絶対ヤンデレ化した一部に血祭りに上げられそうだけど。

被害が及ばないようにとこっそりジライヤが私を膝の上に移動させた。夕食はすっかり修羅場だ。

「……みんな共闘するんだから仲良くしてねー……」

愛されってこんな面倒なんだな。

全くもって話を聞かずに部屋の隅でこっそり盗み出したケチャップを直吸いしてたピカチュウをぼんやり見ながら私は晩御飯に戻った。

ケチャップはもっとしっかりしまいこもう。

「じゃじゃじゃじゃ～ん！というわけで結たんにはこれをプレゼントでぅぃす」

「何これクソデカ妖怪ｐａｄ？」

「ノンノン、これはスティーブ・ジョーズや虚空蔵菩薩様、キャスギルやエジソン、ミチザネサマに朝尊に明石さんなどなどなど!!皆の力を結集して作り上げたウルトラミラクルスーパーエキストラアルティメットゲームｐａｄでうぃすー!」

「長い上にくそださいネーミング」

「なんと!このｐａｄには我々の元ネタのゲームやゲームアプリが全て入っていて操作可能でうぃす!更に妖怪Ｗｉ—Ｆｉを利用しているので地球上どこでも通じる他、時空や時限操作の出来る方々にお願いして何時の時代のゲームでもサ終済みのゲームも出来るのでうぃす!さらに大容量かつバッテリーも……」

「えっ」

　ウィスパー今なんて?サ終したゲームも出来るって?マ?

「えっ……まって……ってことは千銃士もなむあみもバンケツもでみめんも、他のあれもこれも出来るの……??????」

「ええ!まぁ新規イベントや更新があるわけではないでうぃすが、既存キャラを育てたりストーリーを読むくらいは」

「神では?!?!あっポケモンも出来る妖ウォもできる!!とうらぶもなむ皆も私がやってたアカウントやセーブデータそのまんま!!や、やったー!!!!」

　しかもゲームで育てたステータスは喚び出す子達に同期される!!やったね!結ちゃ

ん!!家族が増えるよ!!!!!!